

南丹市総合教育会議議事録

＜令和 5 年度第 2 回＞

令和 6 年 3 月 15 日

令和5年度第2回南丹市総合教育会議

- 1 日 時 令和6年3月15日（金）
開会：午後3時30分 閉会：午後5時20分
- 2 場 所 南丹市役所2号庁舎3階 301会議室
- 3 議 題
(1) 第2次南丹市教育振興基本計画及び令和6年度「南丹市教育の指針」について
(2) 教育課題について
- 4 出席委員
西村市長
國府教育長、高屋教育長職務代理者、城戸委員、湊上委員、前田委員
- 5 会議に出席した職員
＜教育委員会事務局＞
柴田教育次長、芦刈教育参事、山内教育総務課長、山田学校教育課長、
小久保学校教育課参事、川勝社会教育課長
＜総合教育会議事務局＞
國府市長公室長、井尻企画財政課長、片山企画財政課課長補佐、
佐々江企画財政課主事
- 6 傍聴人 2名
- 7 会議の経過

＜1＞開会（進行：総合教育会議事務局）

ただ今から、令和5年度第2回南丹市総合教育会議を開催いたします。開会にあたりまして、西村市長からご挨拶をいただきます。

◇市長あいさつ

令和5年度第2回南丹市総合教育会議を開催いたしましたところ、教育委員の皆さまには、年度末でご多忙の中ご出席いただきましたことに心からお礼を申し上げます。

ご承知のとおり、この総合教育会議は、南丹市の市長部局と教育委員会が教育課題や目指す方向を共有しながら教育行政を推進していこうとするものであります。市民の皆さまから選ばれた首長が、教育に関しましても責任を負うということで総合教育会議は設置されています。

本日の議題については「第2次南丹市教育振興基本計画及び令和6年度「南丹市教育の指針」について」でございます。南丹市の教育の根幹をなす計画の改定でございますので、限られた時間の中ではありますが、委員の皆さまとしっかりと議論をし、目指す方向性を共有しながら、南丹市の教育行政のさらなる推進を図ってまいりたいと考えております。

また、令和6年4月1日の組織改正で教育委員会に「こども家庭センター」を設置することとなりました。既にご承知いただいていますように、子育て支援課が担う児童福祉や幼児教育・保育などの業務や保健医療課が担う母子保健の業務を集約し、教育的な視点、福祉的な視点の両面から一体的に取り組みを進めてまいります。特に、生まれてから成人になるまで教育的な観点から一貫した成長を支援していく体制を作りたいです。垣根を超えて、一般行政と教育行政の仕事を融合しながら組織は教育委員会に位置付けて取組みを進めていきたいと思っています。そういった新たな視点も踏まえながら、教育委員の皆さまには、忌憚のないご意見を賜りますことをお願い申し上げますとともに、教育行政の推進に対し、より一層のご指導やご協力を賜りますことをお願い申し上げます。冒頭のあいさつに代えさせていただきます。お世話になりますが、よろしくお願いいたします。

〔総合教育会議事務局〕

ありがとうございました。本日ご出席いただいています委員の皆さま、また、事務局として出席している職員の名簿については配布している次第の裏面に掲載をしています。

それでは、本日の議事に入ります。当会議の議長については、西村市長にお願いします。よろしくお願いします。

＜2＞議事

（１）第2次南丹市教育振興基本計画及び令和6年度「南丹市教育の指針」について

〔西村市長〕

お手元に本日のレジュメを配布しています。そちらに沿って進めてまいりたいと思います。教育委員会事務局から説明をお願いします。

(教育委員会事務局から第2次南丹市教育振興基本計画と令和6年度「南丹市教育の指針」の概要説明)

〔西村市長〕

ありがとうございます。説明もいただきましたが、教育委員の皆さま方や我々も事前に内容について目を通しています。ですので、早速ではありますが、基本方針や施策につきまして皆さま方から忌憚のないご意見や感想をお聞かせ願えればと思います。よろしくお願いいたします。

〔高屋教育委員〕

教えていただきたいのですが、来年度から教育委員会の組織が変更になります。事務局に伺うと、こども家庭センターが教育委員会の中に入るのは南丹市だけで他の市町村は入っていないと聞きました。今入っている京丹後市についても、将来的にやめる方向で進んでいると聞いてます。

そこで、教育委員会の中にこども家庭センターを作られた大きな目的、または市長の考えを教えていただきたいです。よろしくお願いします。

〔西村市長〕

教育長と、これからの南丹市の子育て全体についてどのような方針を作っていくのかという話などを積み上げてきました。その中で特に問題となっているのが幼稚園、保育所でのいろんな実践の積み上げですが、子どもにとっては難しい問題に直面しています。小学校にいくと、色々な経験をし、課題にぶつかったりもします。中学校も同様です。それから世の中に出ていくことになります。それぞれの年齢段階に応じた子ども一人一人の成長を一元的に捉えて、組織的にも一本化をして取り組むべきではないか、と議論を積み上げました。結果として、教育的な観点から、生まれてから大人になるまでの間を通して子どもを見守り支援していける体制づくりを考えていこうと思いました。それを一つの理由として、教育と福祉を一本化することとなりました。

もう一つの考え方としては、国が子ども真ん中社会を作ろうとのことで、子育てについては一つの省庁を設けて、そこで総合的に教育活動や子育て活動に取り組んでいくということですが、結果的には文科省と、こども家庭庁に分かれてしまいました。色々な制度の申請や許可を受けたりということについて、現場では一本化が必要になると思いました。国では二つに分かれています、本市では一本化して取り組むことがより合理的でスムーズに進むのではないかと考えました。これが二つ目の理由です。それと合わせて、他所では例がないことですが、箕面市など一つの例で、かなりしっかりと取り組みを進めておられます。それから京丹後市も教育委員さんが研修で現場視察に行っていました。その時には表に出てきていませんでしたが、京丹後市の特殊な事情で継

続が難しいとのことでした。裏の詳細まで聞いていませんがそういうことがありました。

私が先程申した二つの理由を原則として、南丹市は独自の取り組みを進めて、問題があれば考えていきたいです。他所が上手くいった、いっていないはあまり気にせず、本市は本市で取り組みを進めていければいいと思い、体制づくりに取り組んでまいりました。また教育長からも補足をいただきます。

〔國府教育長〕

市長がおっしゃったように、色々な子どもの現状があります。私自身、36年間中学校の現場に居ました。その中で、この立場になった時に京丹後市から就学前教育が入ることで非常に連携がしやすくなったと教育長同士の会話の中で聞いていました。

国のように多数の職員がいて、こども家庭庁と文科省があったとしても、本市の場合は限られた人数でやっていくことになります。その中において、一つは義務教育を終える中学校の段階で色々な子どもたちの課題が思春期の揺れの中で出てきます。縦の繋がりが不十分で情報が共有できないと、二次障害的に様々な課題が噴出してしまうことがありますので、今ありましたように、こども家庭課並びに幼児教育・保育推進課が教育委員会に入ることによって情報が一元化できると、二次的な障害は防げるのではないかと考えています。

一つは、令和5年度の中で生徒指導面で学校の頑張りや、市、教育委員の皆さまの支えもあり大きな事象は出ていません。しかし、潜在的な部分では色々な事象が教育委員会に報告されてまいります。小学校は小規模化していく中で、先生が転勤すると情報が残っていないことがあり、小学校の中であったことが引き継がれなくなります。特別支援的な課題の診断書があっても、なかなか引き継がれていないこともあります。縦の情報の繋がりの中で二次障害的な生徒指導面や不登校の負の連鎖は切りたいとの思いがあります。

一番大切なのは、就学前に注目されているように幼稚園、保育所では遊びの中で非認知能力、いわゆる我慢する気持ちや横と繋がる気持ちであったりそのところで、頑張っ
て教育されていても、小学校との繋がりが不十分になると一からやり直すことになります。幼小接続。連携ではなく接続にしたいです。本市の強みはブロック活動で園部中学校、八木中学校、殿田中学校、美山中学校、それぞれ保育所の所長も入った組織を作っていることによって、これまで成果を多く出しています。それを、市全体で一つにして就学前から小学校義務教育に入るまで接続することで、教育の連動性があり、より良い教育が育まれるのではないかと考えています。

今年も生徒指導で色々と起こりましたが、各学校にケースリストと呼ばれる情報の共有化できるソフトを導入して、園部小学校、園部中学校を中心に密な連携の中で成果を出しています。それを全体化することで、全小学校に導入できました。しかし、特化した子たちなので、今後は就学前を含めて全児童に一元化することによって、家庭環境や

特別支援的な課題をお持ちのお子さんなど、スムーズに連携することで課題克服ができるのではないかと期待を持った今回の機構改正になろうかと思います。

市長とお話する中で、小学校のケースリストは全小学校に入っています。全体的に広げていくのは組織改革によって作っていきます。縦の繋がりを密にすることで義務教育を卒業する時に良い成果を出したいです。

強みはブロック活動で、保育所や幼稚園も入った活動をしていることは南丹市の強みだと思います。そして、各校の繋がりがあって強みを活かしていくことで、ICTも頑張っていると思いますので、今ある強みを有効に活用することで、本市の大きな課題である学力、不登校について、不登校はゼロを目指したいです。ゼロというのは特別支援的な課題がある方は治療と教育との両輪があります。今申しました、家庭環境や繋がりの中で負の連鎖を切りたいです。

お手元の令和6年度教育の指針の2ページにあるように、こども家庭センター長ができました。オレンジ色の部分がこれまでの教育委員会事務局に加わります。そういったことも含めてできないかと考えています。ただし、急に成果は出ません。庁舎改修もあります。恐らく来年度は、子育て支援について、こども家庭センターと教育委員会の執務室が離れており物理的な距離があります。庁舎改修が終われば、同じ階にいられます。今までは、小学校、中学校でケース会議を開く場合は一回一回福祉と連携をしながらあったので、タイムラグも生まれたりしましたが、すぐにできることになります。

子育て支援課が非常に良く動いていただき、タイムラグがあったとしても課題克服の効果を出していただいています。私の経験上、他市の学校に務めたこともあります。南丹市の強みで、教育委員会に入ることによって円滑に進むのではないかと期待も持ちながらやらせていただきます。以上です。

〔高屋教育委員〕

ありがとうございます。追加でお聞きします。

南丹市の特色ですが、就学前教育と小中が連携をするのは非常に良いことですが、南丹市には私立の幼稚園、保育所があります。今の保護者のニーズが夜遅くまで子どもを見てほしいということが大きいので、公立保育所よりものぞみ園へ行く子どもの数がすごく増えています。また、もう1つ新しい保育所を誘致されるお考えも聞いています。そうすると、公立と私立の連携が大事になってくるのではないかと思います。その辺りの考えを市長、教育長から教えていただきたいです。

〔西村市長〕

縦の情報、流れを追跡、共有できるように取組んでいこうと思っています。横の繋がりについては、サイボウズのキントーンという情報共有ソフトを使用して瞬時に情報共有ができる仕組みもあります。そこには公立の学校で、私立は入っていませんでした。

のぞみ園ができるまでは、聖家族のみでしたが、私立の勢力・領域も広がってきています。のぞみ園の園長とお話をして、南丹市の連携会議、校園長会に、どういう形になるか分かりませんが、私立も参画できる方法を考える必要があると意見が一致しました。まだ、具体化はしていません。情報共有をしながら、私立の取り組みを公的なサイドからも支援し、あるいは私立から情報をもらう取り組みをしていかなければなりません。大半が公立の南丹市内の小中学校へと進んでいきます。今おっしゃった内容というのは、確かに必要だと感じています。その方向については、具体化をしていきたいと思っています。

〔國府教育長〕

組織を変えて行く必要があります。校園長会議という小中学校の校長先生と幼稚園の園長先生の会議がありますが、来年度からは、名前を校園所長会議にし、保育所の所長の先生も入っていただきます。ただし、保育がありますので、なかなか所長先生、園長先生が来られない部分があるので、回数は減らして年間3～4回は全体が集まる会議を持ち、私から話をさせていただきたいです。残りの月は小中学校長会と園所長会を分けて会議をしたいと思っています。例えば、4月は校園所長会をし、5月と6月は分けて7月は合わせて行うということを考えています。

まず、来年度は就学前も上手くしていきたいです。今も園長先生に入っていますが、だいたい小中学校の内容が多いです。一緒にする部分と明らかに分けてしていく取り組みを、来年度からそのようにしていきたいと思っています。それについては、両幼稚園長と保育所長に対して今月会議に出向き説明をしました。

京丹後市は、組織ができる当初に就学前の私立と公立がはっきりありましたので、一つの組織として作っておられます。

南丹市の場合は、先に公立の園所長会です。まず来年度はそれをやる中で、次に年間の研修です。公立、私立を一緒にしながら共に就学前教育を考えるとところからです。それぞれの考えがありますので公立と私立の交流から入り、就学前の情報一元化に向けて中期計画、長期計画でしていく必要があります。いきなりは難しいので、来年度はまず公立の園所長の兼ね合いを上手くしていきます。研修で公立と私立を一緒にしてみても、状況をリサーチをし、考えを聞く中で長期的に就学前と義務教育を接続できるように、そういうのを長期的目標に掲げています。

新たなチャレンジになりますので、ひな形はありません。京丹後市が支障がありどうしても一緒に出来なくなっておられます。そのバランスを見ながら、本市のエンジンの大きさに合わせて子どものための教育を実現できる手立てを具体的に取り組みを進めたいです。

第4期の教育振興基本計画に基づいて本市の規模に上手く合わせて負の連鎖を切りたいという想いです。以上です。

〔高屋教育委員〕

保育所などの非常に正規の職員が少ないということもありますし、こうやって業務がたくさん増えてきそうな予感がしているのですが、業務改善の観点とかそういったマンパワーが不足するところをどうやって攻略していくのかこれからの課題で大変だと思いますけど、あわせて、人が減っている保育所と人が増えている保育所もあって、このソフト面の整備の他にハード面の整備が必要となることがたくさん出てくるのではないかと考えています。いよいよ新しく、就学前と中学まで結ぶとなりますと、そういった課題で財政上もかなり負担が出てくると思いますが、そういうことについては「任せとけ」ということでよろしいでしょうか。

〔西村市長〕

「任せとけ」という言葉は、いろんな意味があると思います。丸いものも必要ですし、組織体制も必要ですし、運用していくノウハウも必要ですし、三つが揃わないとなかなかできない状況です。今日、非常に正規の職員が少ないのではないかと、実際に難しい問題でして、一つは新規に正規職員を募集しても受験者がいないと。今年度は何とか来ていただいて、採用にこぎつけていただいたと思ってでも辞退、掛け持ちをされていて条件のいいところに行かれるということになると思うのですが、それがいよいよ新しい年度が近づいてきて確約書をいただいても辞退ということになると、そうすると次の年度に向けて職員を確保するということが間に合わないです。それからもう一つはめでたく就職していただいて、現場にお世話になるとなっても途中で辞められる方が増えてきております。これは保育士さんに限った話ではないのですが、本当に人の取り合いが始まっています。一般行政のところでも、南丹市の職員が京都市の職員になったり、京都府の職員になったり、はたまた神戸市の職員になったり、より大きな自治体に移っていくという傾向も出ております。これは南丹市だけの問題ではありません。そうならないようにしていても、なかなか改善していかない厳しい現実があります。先般隣の兵庫県丹波篠山市の保育士の募集が南丹市全域に新聞折込でなされましたが、今そういう状況になっています。施設面の整備については、園部保育所と城南保育所がだんだん老朽化してきていて、園部と城南の保育所を現在の園部幼稚園のあるところに認定の子ども園として統合を考えています。園部の幼稚園については、非常に大きな定員を持っているのですが、実際には50名ほどこしか子どもがいないということですので、一旦そこに子どもたちを統合するとともに、新しい私立の保育所・認定こども園に子どもたちをうまく割り振っていくということで、公立と私立が助け合いながら、子どもたちの保育事業を進めていく、また幼稚園事業を進めていくということになります。なので施設については、何か代表的なことを今からやることよりも私立にお世話になってということで、ハード面はそう心配はしていません。日吉と美山の施設についてはそれぞれ老朽化はしていますが、キャパシティ・大きさについては十分であると。八木がかなり老朽化して

いて一旦大規模な改修をしましたが、いずれそのところは整備をしなければならないという事態です。中央と東の2園ありますが、そこを一本化するかどうかというところの議論も今後進めていかなければならないと思っています。ハード面はそういう風に一定の取組で解決していくと思っています。先立つものも必要だと思っていますが、むしろ人材の確保・保育士の確保が非常に厳しい中で、いわゆる奨学金の返済の支援をしながら、そういうところをアピールして今後も人材の獲得に努めてまいりたいと思っています。

〔國府教育長〕

今ありましたように、これから先の就学前教育について、やはり人手は厳しい状況にあることは変わりませんが、内容については先ほどお話しさせていただきましたので、そういう方向性をもって整備をしながら、教育の質の向上を図っていきたいと思います。

〔西村市長〕

小学校や中学校でも京都府教育委員会が毎年教員の獲得をされていますけれども、充足していない状況です。本当に日本の人口が減っていく中で人材の確保は大きな課題です。

〔城戸教育委員〕

私立の保育所への業務委託にあたり、昨今ニュースで報じられるような、不祥事、事件、事故を防ぐため、どのように行政として関わるお考えでしょうか。

〔西村市長〕

非常に残念なニュースなども見られます。幼児に対しても対応のまずさや暴力的な行為であったり性的な加害も小さい子どもに対しても行われているということです。先ほど教育長からもありましたように、一定の私立と公立の交流・研修からとりあえずは進めていこうということですが、都度の情報交換と、これも今すぐではないが、私立とも連携できるシステムの構築に近い将来必要であると考えます。そういった意味では、そういう不祥事対応だけでなく、保育活動や教育活動全般に情報を密に共有化していったり、あるいは研修の場面を一緒に取り組む場を作っていくことは考えていくべきだと思います。

〔國府教育長〕

私の考え方では、閉鎖されたところではそういうことが起こりやすいです。だから今回教育委員さんと一緒に保育所を回りました。そうすることにより、そういう実態が多く目の入ることが大切ではないかと思いました。どなたも様々な意見が出せて集約で

きるシステムを今後考えていかなければならないだろうと日常的にそう考えています。いろんな不祥事が起きていますけれども、子どものためにという思いでそういうお仕事に就いていただいていますから、その気持ちを多忙な中で見失うことがないように、計画的な研修と交流をやっていかないと私は駄目なのではないかと思っています。小中学校でもいろんな事象が起こっていますように、そのあたりは多くの目で多くの人で見るのが、難しくもありますが、必要になります。例えば小学校中学校でも、特に中学校では女の子に男性教員が指導するときには必ず女性の先生を横に置くというのは当たり前ですし、10年前20年前は忙しい中で一人で対応していましたが、今はもうそんな時代じゃないということなど、教員のコンプライアンスに対する考え方とかも含めて、保育士さんも含めてそういう研修の在り方となぜそれをするのかをきちんと共有しながら高め合うことが必要だと思います。

〔西村市長〕

ご意見を續いて聞かせていただきたい。ご質問も聞かせていただきたい。渕上委員の方から何かございますか。

〔渕上教育委員〕

今回組織を新たにということで、就学前から一本化して見ていくということに対しては良いことと思いますが、今少子化で子どもたちが減っていて、どんどん過疎になっていく中で、南丹市としての魅力はいろんな面がありますが、今予算が削減されたりとか、JRの増便もなく、南丹市で育った子たちが離れていく状況があります。南丹市に子ども子育て世代を呼び込むような魅力を、組織を変えるのと同時に少子化に伴って外から子育て世代を呼び込む案も一緒に考えていった方がいいのではないかと思います。子育て世代にアピールするようなことに対してどのように考えているのかお聞きしたいです。

〔西村市長〕

山梨県のとあるまちだったかと思いますが、英語教育をいろんな場面に取り入れていくということがあったと思うのですが、実際にそれを見てそこへ移住していくというような事例を記憶しています。本市の場合は受けた教育があるという、そんなまちにしていくための特徴づくりということがこれから必要になろうと思います。ただ英語教育を入れたらいいというわけではなく、それぞれの学力をしっかりと検証していったり、それから不登校とかそういうことを数字で改善していったりしていくことです。あるいは本市の場合、学童保育の取組も隔々までしっかりととはなかなかできていませんが、幅広く進めて目配りをしていけるような組織体制になるということです。さらに不登校のための適応指導教室さくらの取組を進めていただいたり、課題を持った子どもたちに出

来る限りの支援・取組をしていくことと、二つの柱であります、学力の保障と不登校なり課題ある子どもたちに対する、他所よりもきめ細やかな対応というものを柱にしながら本市の教育のアピールをしながら対外的にも南丹市には受けさせたい教育があるまちということをPRしていきます。

〔國府教育長〕

校園長会議において、南丹市の財政が厳しい中でやっていただいているわけですが、校長先生や園長先生に声をかけているのは、お金もいるけれども、知恵を出し合って良い教育を生み出していこうと話をさせていただいています。その一つとして、ICT環境の整備で市からお金をを出していただいて、以前の教育委員会の方で環境整備をして、今先生方が一生懸命にICTの研修を受けて活用しています。いろいろなものを高齢の先生も使われるようになって、近畿の中でのランキングというのが文科省のある結果が出ていたが、南丹市は小学校は全市町村の中で1番なんです。中学校は京都府で2番目です。そういったことが、やはり本市の強みで今先生方が意欲的にやっています。京都府の交付金でも手を挙げてやらしていただいている「すらら」というAIドリルを小学生中学生全員使っています。私はICTに疎いですが、参事が専門的にやっていただいています、一か月にどれだけ「すらら」を使って勉強しているのか、どこの小学校の何年生の何組がどれだけ使っているというのが全部データで出ます。1月2月は各小学校中学校は「すらら」を使って勉強していることがあって、来年度は放課後児童クラブにそういうWi-Fi環境を作るのを世話になると聞いているので、自分に合った最適な学びを今の南丹市のお子さんは受けることができるということは一つの強みだと思っています。

また、八木西小学校が南アフリカのシロアム小学校とZoomで授業したり、美山小学校ではブータンとしました。これから少子化が進むのは見えていますので、複式学級になると思います。市全体でみれば、Zoomで繋がれば教育の質は維持できると思います。それで美山小学校と園部第二小学校は総合の時間をZoomで授業をすることで、時代ががどんどん激しく変わっていく中でも工夫することで今ある財産を活かしながら一つそういう成果を残していただきます。

二つは読書環境、交付金を活用して全小学校に書架が入りました。19日には中学校に集中ブースが12個、各中学校に入ります。工夫する中で、そういった「すらら」を集中した中で使う目的や、あるいは不登校のお子さんが使ったり、特別支援学級のお子さんが使えるようになる読書環境を整備してきていることも強みです。「市長と語ろう 私たちのまちづくり」も学校運営協議会制度やコミュニティスクールを活用したところで地域の人から学んだことを市長に語るというコンセプトでやらさせていただきました。各小学校中学校の取組が見えるようになってくるので、そういうことをしながら、独自の地域にもお世話になった教育も今年度は一歩踏み出すことが出来たと思っています。

適応指導教室さくら、教育委員会でも話させていただいたんですが、不登校のお子さんが家にずっとこもりっきりのお子さんがさくらに足を向けてくれることがあり、4月当初21名で10名増えました。そういう中で、人と触れ合って、温かい給食を食べに学校に行って、昼からは学校の別室で勉強をする子たちが3名います。

受けたい教育がある南丹市として他にはない取り組みが徐々にできつつあるなと思いますので、来年度からも、お金でどうこうするだけではなく、中身の部分でいろんな工夫をして、若い先生はICTに熱意が出ているのを見て、可能性を感じていますので、そういう部分も含めて、出来るだけ色々なところで広報していきたいと思います。

〔前田教育委員〕

地域と連携した学習機会が大事だと思っていまして、小学校の教科書は昭和42年くらいまで産業が農業・水産業・林業・工業でしたが、昭和50年過ぎから産業が農業と水産業と工業だけになって林業がどこかに行ってしまう、偏ったものになっています。木育とか環境教育の中で林業を学んでいるかもしれませんが、南丹市は山がたくさんありますので、小さいころから見たり触ったり、話を聞いたりすることで、ふるさとを一旦離れても帰ってきてもらえるようにしてほしいです。今言っておられたICTが一次産業をすごく底支えするし、川上と川下の連携が非常に大事になっているので、そういったところで活躍する人もでき、実際山に行つて木を伐るということをコントロールできるかもしれませんし、ICTの先にあるかもしれませんので、ぜひ一次産業や自然のことにICTのことを育てるようなところにも視点を置いていただければ有難いです。

〔西村市長〕

林業を地域の大切な産業として学校教育の中でもある程度位置づけて、将来の仕事にも繋がっていけるような取組を考えられないかというご指摘でした。林業関係の中でも、将来の人材の確保というのが非常に課題になっています。現在、なかなか林業自体でしっかり暮らしを支えていくということは困難になってきていますが、一方では森林管理システム、財源まで手当を受けてこれから人工林の荒廃林を森林組合などと協力しながら市町村もしっかり関わって行かなければいけないという制度の立て付けになっていますので、その中で、一番言われているのは、本格的にもっとやっていくためには人材が全然足りません。今ある森林組合にお願いをしても全然回っていきません。そんな中で人材の獲得に向けて何をやっていかねばならないかというところ、他所から誰かを引っ張ってくるというのは大切ですが、やはり地元で林業を目指すような人づくりをしていく必要があると。この地域には和知ですが林業大学校もあります。もうすでに隣の京丹波町では山に子どもが入っていくという取組がございます。南丹船井の森林関係者で組織しております協議会がございます。そこでも木育で木を使った作品作りなどをすでに進めていたり、緑の少年団という取り組みもありますが、まだまだ弱いと思っておら

れると思います。京丹波の方を見ても、学校が組織的な取組を、目的意識的にやられていると思います。そのあたりの情報も入れながら、本市で取り組める内容というのを考えていかなければならないと思いますし、特に山国といわれます美山の教育にそういう観点をとりたいと思います。あるいは日吉の小学校にもそういう観点をとることについては、教育長とも相談しながら考えていく必要のある課題の一つとして受け止めとさせていただきたいと思います。具体的な答えになっていないのですが、要は位置づけをしていくという問題意識はあります。前からもあるのですけれども、具体的なことに繋がっていないということです。美山で過疎教育の大会があったときは林業の課題も山の課題・森の課題というのも美山中学校で大会がありました。そんな時には展示物などにもそういうことが取り入れられるようにしましたし、そういう取り組みも過去にもありましたので、そのあたりも考えていきたいなと思います。

〔國府教育長〕

一つは、「市長と語ろう私たちのまちづくり」の時に美山のお子さんが、林業について熱く語っていただきましたけれども、そういうことを他の園部や八木の小学校中学校の子どもたちも知る機会になったり、市長や議員さんにも聞いていただく機会になったりしました。未来の担い手育成事業で美山小学校と美山中学校には、どんなものがあるかせっかくなので説明をお願いします。

〔教育委員会事務局〕

芦生の森、原生林は美山町が持っている大事な資源資産の一つですので、美山小学校・美山中学校では従来よりそこについての地域学習を進めております。4年生で一度芦生の森のフィールドワークに行っております。そこで学んで、もう一度中学1年生になったときにフィールドワークというところで学び直しをしております。発達段階に応じて感じることも違いますし、また美山の原生林は大変広くございますので、いくつも勉強できるコースがあります。小学生と中学生とでは体力差もありますので、違うルートを勉強したりしています。それから芦生の原生林は地域の方が守りつつ、地域の方がワールドツアーの専門員をしておられることもあり、そのようなところにお世話になって、地域のことを学ぶということをやっております。

〔國府教育長〕

そういう部分で、未来の担い手育成事業で校長がプレゼンをして、自分の学校にこういう教育があるからということで、予算付けをしながら継続して今取り組んでいるところです。

今『南丹市を知ろう』みたいな教材を作ってくれています。その説明をお願いしたいです。

〔教育委員会事務局〕

デジタル教科書の『わたしたちの南丹市』という社会科の副読本を作ってしまして、小学校の教科書が変わるということで、副読本の内容の見直しを図りまして、その中で地域のことをたくさん紹介しているんですが、来年度からそれをデジタル教科書化して子どもたちが全てそれを無料でタブレットで見られるようにします。東京書籍に協力していただいてデジタル化を進めています。

〔國府教育長〕

もう間もなく完成する予定で、林業もですけども、南丹市全体の色々なことについて、社会科の授業で学ぶ。それをデジタル教科書化しているのはうちの強みです。

〔城戸教育委員〕

現在、八木駅西側の住宅開発が進み 200 軒余りの建設が見込まれています。新居を構えられた方の中には、小学生や地域の住民が気さくに挨拶を交わす様子を見て、この街で子育てをしたいと移り住まれた方もあります。

スローガンを掲げたのぼり旗が、外から訪れた方にも、街のイメージが伝わり易く、学校を中心に地域と共に取り組んだ挨拶運動の成果であると考えています。

〔西村市長〕

八木の本郷のエリアについては人がかなり増えています。あっちこっちで開発はされていて実感としても感じているのですが、残念ながらそれだけ増えても全体としては、亡くなる方がそれ以上に多いので、子どもが生まれるのがまだまだ少なく、人口の減少に徐々にブレーキをかけたいのですが、3 万人も切ってしまったという厳しい状況です。しかし、引き続いて従来の定住促進での山間部も含めての取組については継続して進めていきたいのと、それから比較的交通インフラが整備されている駅周辺については家を建てていただけるような開発の条件作りは引き続きしていきたいです。八木であれば、B&G の海洋センターを解体していますが、あそこはかなり家が建つ予定ですが、民間の開発業者を誘導をして住宅を建てていただく。園部でも地元の業者というより、京都市内とか亀岡とかの開発業者がかなり入ってきて増えてきたなという状況です。定住促進で空き家の取組については、計画的に実施していきたいと思っています。お話の中心は、目に見える形で住んでみたい、あいさつ運動の取組など、非常に効果があるので、もっと重視していきなさいということだと思います。八木中学校の取組については、継続して取り組んでいただいておりますし、八木中学校だけでなく、殿田の小学校も地域に出て行って、ゴミ拾いをしたり、殿田中学校が地域の中に、学校の取組を掲示するとか、殿田小学校が花の苗を配ったりしていますし、そういうふれあいが他所の人の目についたら、ここはあったかい良い地域だと思われるので、そういった意味では学校での多様

な地域コミュニティスクールの考えに基づいた取組というのは新聞でも取り上げられていますし、評価されるのではないかと。また人口の流入にも役に立つはずだと思っています。

〔國府教育長〕

分母が少なくても、南丹市の教育に魅力が感じられるようなということで、色々な知恵を出し合いながら工夫していけたらと思います。そういう意味では八木のあいさつ運動やのぼりとか未来の担い手育成事業で出しておりますし、そういうことも見ながら市からいただいたお金を上手く活用出来たらと思います。地域によって特性がありますので、園部は主体的な学びを追及してもらおうとか、八木は人権教育とか、殿田は道徳教育を、美山は就学前教育と、それぞれの学校の地域性を活かして、みんなで知恵を出し合っていこうということでご理解いただけたらと思います。

〔西村市長〕

まだご意見あるかと思いますが、また教育委員会や私の方に直接お話しいただきたらと思いますので、一つ目の議事についてはこのあたりで終わりにさせていただいてもよろしいでしょうか。

（２）教育の課題について

〔西村市長〕

それでは教育の課題についてを議題といたします。南丹市の教育の現状や課題について、みなさんが日頃から感じておられることなどについて、意見交換をしたいと思います。どんなことでも結構ですので、ご発言をお願いいたします。

〔高屋教育委員〕

今日の総合教育会議の様子を見て、以前はもっと市長がいっぱい喋っていて、なんか教育にかける市長の熱い思いを感じることが多々あって、市長喋りすぎやうなことが多々あったんですけど、なんか今日はあんまり喋られないなと思って聞いていました。以前であれば例えば、子どもたちに図書券を配って、もっと本を読んでもらうとか、こういう子どもに育てほしいという市長の思いが僕らにも伝わってきていたんですけど、今日の会議を聞いていると、市長が元気がないというか財政健全化プランを立てられているから、そのせいなのかもしれませんが、もっと市長が教育をこうしたいとか期待というか希望というか、そういう思いを喋ってもらった方が、教育現場としては活気付くと思うのですが、今日はそういう声が聞こえないので寂しいなと思いました。そういうところを聞かせていただきたい。

〔西村市長〕

後ほどでもよろしいでしょうか。

時間がないので、先に、教育の課題についての思いを一つでも二つでも何かございましたら。さっきも言ってもらいましたが林業のこととか。

〔前田教育委員〕

ちょっと気になるところと言えば、クラブ活動の地域移行ですが、今一生懸命南丹市の特色あるやり方で進めてもらっているのですが、美山の方も時間がかかりますけど、ほかのところで一緒に野球なんか取り組んだりしているので、それでいいんですけど、結構時間と距離が大変だと思うんですけど、もうちょっといい方法がないかなと思っています。

〔淵上教育委員〕

教育的に ICT がどんどん発展してきて、デジタル教科書とか AI ドリルとかの強みでという話をしましたが、逆にそういうのを進める中でドリルとかだったら保護者からしたらデジタルに見るよりは昔ながらに丸をしたりして、ここが出来てへんのやなとか、そういう風に理解したんだという方もおられると思いますので、そのあたりをどのようにお考えかお聞きしたい。

〔城戸教育委員〕

前回の教育の指針の中には、読書ボランティアを育てるという文言がありましたが、今回は記載されていません。

各地域、小学校毎に絵本を読み聞かせしているボランティアの方々がおられるので、そのボランティアのスキルアップや交流を目的とした講習会、研修会を図書館主導で行っていただきたいです。読書ボランティアに関わる人材を育成することも必要と感じます。

〔西村市長〕

今それぞれの委員さんからテーマをいただきました。初めのもの以外は具体的な教育の取り組みのことなので教育長から回答をお願いします。

最近元気がないけどもっと教育のことを語れということですけども、昔、園部の高等女学校の校長の井上堰水、それから川辺の石原半右衛門、帝国議会の最初の国会議員です。その人が友達で、二人はよく会って話をしました。山に登って、自分の地域を見渡しながら、それぞれこれからどう生きていくのかについて議論を交わしたそうです。石原半右衛門は政治の世界で国を引っ張っていくと。井上堰水は教育で地元の子どもたちを、という話をされております。そういう記録が残っております。私は非常に単純な話

なのですが、子どもたちが山に登って自分の住んでいるふるさつを見るような取組が非常に大事なかなと思います。いろんなこと、いっぱい大事なこともあるんですけど、そういうことももっと進めたいかなと思います。それは歴史的な学習にも当然なりませんが、地域の人たちが力を合わせて場所づくりや登山道づくりをする、そういうものにもつながっています。美山でしたら今宮神社も登れますし、子どもたちにとっては距離がありますけど。それから宮島の方に行くと、島城。あるいは園部は園部城の小麦山です。八木でしたら八木城。新庄城も登山道づくりの相談をしております。それから神吉は和田城というのがありますし、それから残念ながら、道がだいぶ消えておりますが、川辺でしたら蟠根寺城、蜷川城ですね。あるいは藁無城とかですね。いろんな地域のお城がありまして、小さいうちから山に登って、自分たちの地域を鳥瞰して地域のことを学んでいく場面を作っていきたいなと。人に呼び掛けていかねばならない。すぐできることではないのですが、それぞれこの地域にもシンボルとなる高い山があって、そこを活用したい。それがどういう意味があるのかといえば、広い視野で自分の住んでいる地域を上から眺めてみるということがその人の生き方に必ずプラスで影響してくると思います。以上です。

〔國府教育長〕

部活動の地域移行についてですが、これは非常に難しいです。いろいろ会議をしていますが、中学生まで面倒をみられるという方の登録制もやっていますが、ないのが現状です。教育懇談会でも報告させていただきましたが、教員の中には部活動に対して非常に熱心な方がおりますので、野球とサッカーを月に一回でもみんなで集まってやろうという雰囲気になりました。まだ決定ではありませんが、来年度以降にバレーボールとバスケットボールといった集団スポーツができるかというのが本市の大きな課題です。再来年度くらいになると、自分の学校にはない部活動も対象にしたいです。一番基本は陸上部で、園部中学校にしかありません。だから再来年くらいは陸上に興味がある子が月に一回は園部中学校に行くとかを考えています。交付金がある間に試せることは試そうとも思います。私の中では部活動の地域移行についてはやっていきたいと思います。中には美山中学校で男子バレーボール部が3人ほど、女子に混ざってやっていて、今度は逆の発想で、美山中学校に他の中学校でバレーボールをしたい男子が月に一回出来るような環境を2年後に作ったりして、この3年間の交付金のある間に試しながら、できないかと考えています。国が言っているようなことは絶対無理ですので、形を作りたいというのが一点です。

二点目、ドリルの紙とICTについてです。AIドリル「すらら」は、本市独自で全小中学校で入っていますが、ドリルは併用してやっていますので、ドリルで教科をやった後に隙間の時間の中で、朝読書とか朝学習で使ったり、あるいは放課後、部活動の引退後にそういうのを使っていく。不登校のお子さんが使っていくとか。そういうことなのです。

で、すべてそちらに移行するわけではありません。というあたりのところで、現状を見ながら、よりせつかくあるもので効果を出すということでご理解いただいて、それが交付金が再来年で切れたら、その後は保護者負担になります。これまで通りのドリルと「すらら」をどうするか再来年判断すべきところと思っています。今は併用してやっているということです。

三点目の読書ボランティア、まさに仰る通りで、リサーチを今年度しました。本を一番読んでいる小学校中学校はどこでしょうかと。冊数が多いから褒めるとかではなく、今の現状を分析したいので実施しました。一番本に触れているのが多いのは、桜が丘中学校でした。いわゆる SNS が淇陽学校には無いので、いろんな自分の空想の世界とか違うところに行くのは、桜が丘中学校では本に手が伸びるそうです。その結果を鑑みて、今日書架が入ったと言っていました。まず読書環境を整えていきます。ボランティアさんにも社会教育課と学校教育課とが一緒になって、SNS ではなく本に触れる機会をどう作っていくかが来年度の課題と思います。幼稚園保育所も読み聞かせの環境づくりというので、読書環境を来年度は力を入れていきます。お家に帰って読んでくれるご家族の方もリサーチしながら、そういう方への投げかけをしながら、学校教育、就学前、社会教育も一緒になって来年度以降は SNS に対しての対応策を考えながら取り組んでいきたいと思っています。

〔西村市長〕

一通り、一つずつ挙げていただきましたが、まだ喋り足りないという方もおられるのではないかと思います。もう一人だけ、何かございましたら。

〔城戸教育委員〕

昨今、多くの企業において転勤の可能性があります。地元若い力が留まりにくい現状について、ご意見を聞かせてください。

〔西村市長〕

人口の一極集中がコロナで一次的に逆になりました。首都圏への集中がぐんと減ったということがありましたが、今は元に戻っています。将来的にも人が増えるのは首都圏だけで、人がどんどん減っていくというそんな中で私が思うのは、政策的・立法的に何かやってもらわないと無理だと思います。税制面の優遇であったり、産業の地方への分散とかそういう手を打っていかないと取り返しのつかないことになると思います。そんな中で地元地域で産業を育てて働く場所を作らないと絶対田舎からは出ていきます。美山もどんどん人口が減っています。結局は地元雇用がないのではないかという感じがします。そういうようなことを一人一人が言ってもなかなか仕方がないのですが、さあどうしたらいいのかという答えは分かりませんが、全国的な政策の展開を変えていく必

要があります。

もう一つはパソナのような企業が出てきました。特にネットで仕事ができる、繋がってさえいればどこでも仕事ができる企業も増えてきましたが、分野が限られています。設計とかデザインとか。もっとたくさん分野はあると思いますが。しかしそういうことも政策的に入れていかないと、我々が企業に色々言っても声が届けられないですし、一番大事なのは地元で雇用の場を探してもらえよう意識付けというのは、学校では中学校くらいで職場体験の取組があるのですが、企業に受けてもらえないといけないのですが、地元の企業に働きかけて職場体験なども受けてもらいながら、地元でも働く場があるということも考えていかなければいけないと思っています。市の職員を募集しても集まらないので、ぜひそれも選択肢に入れてほしいなと思いますし、特に土木の技術を持っておられる方や保育士さんとか全然足りないんで、そういう人に受けてほしいと思います。地元での魅力が大事ですし、一定の賃金水準というの必要なのですが、地元が好きやから地元に残るといって人を増やすような、郷土愛を育む、教育の方針の中にも入ってはいますが、今そういうことをもっと頑張らなければいけないと思っております。

〔國府教育長〕

やはり、今学力の問題を挙げたときに自分が頑張りたいと思えるようにするには、キャリア教育の視点が必要だろうと思っています。従って全小学校にキャリア教育の内容を入れて行く必要があります。園部小学校は、パイロットの方と Zoom を通して総合の時間でやるとか、南丹市ではない、いろんな職業があるということを知るといってのも大事なキャリア教育の視点だと思います。先ほど市長が申されましたように、勤労体験の時に、今ブースで出るだけではなくて、学校に来て講演していただくこともあります。私は園部中学校で4年間校長をしたときに130人ほど一学年おりますが、4年間全員と校長面談をしました。将来就きたい職業を聞くと、3人が南丹市役所の職員と言っていました。言ってくれた人はまだ大学生なので、来てくれるかなと待っているんですけども、そのときは南丹市の職員の人に来てもらって、パワーポイントを使ってブースで話をしてもらいました。そういう活動も来年度は中学校には投げかけながらやっていけたらなと思います。分母が少なくともそういうものを追求しながら、方向性をもって取り組んでいく。中学校にはあるけど、小学校に今どんどん入れてくれていますので、コミュニティスクールの制度も強みとしてあるので、そういう流れができないかと思っています。地元これだけの魅力があるという気づきを増やすことも我々教育の中では入れていきたいと思っています。

〔西村市長〕

やっぱりこうやって集まっていたいて、ご意見を聞かせていただくと大変参考になります。ありがとうございます。もうちょっと続けたい気持ちはあるんですけども、こ

のあたりでこの項目は終わらせていただいて宜しいでしょうか。

＜3＞その他

〔西村市長〕

レジュメの3その他について何かありますでしょうか。皆さん方から何かありますでしょうか。

それでは教育長の方から閉会のご挨拶をしていただきます。よろしくお願いします。

＜4＞閉会

◇國府教育長あいさつ

本日はお忙しい中、貴重なお時間をいただきましてありがとうございます。この今日のテーマにつきましては、南丹市の教育振興基本計画と南丹市教育の指針を説明させていただく機会をいただけて本当に喜んでおります。これからの南丹市の未来を担う子どもたちにどのような教育を計画しているかを知っていただく良い機会になったように私自身は考えております。また機構改正についても少しお話できました。それについてみなさんから私に教育委員会は大変やと言ってくださりました。何が大変なのか教育畑だったので手探りの中で、いろんなことを学ぶ中で一定具体的な案を今日お話しさせていただきました。そういった意味ではみなさんのお支えをいただきながらさらに進めていくことが出来ればと思います。この教育振興基本計画の表紙は吉田悠太君の作品です。これは印刷ですが、刷り上がったものを見せていただいたときに本当に感動しました。中学校のときなかなか学校に来られなかった子がこんな素晴らしい作品を作るんだというので、この表紙を飾ってくれたことが非常に嬉しいですし、もう一つは教育の指針で、全ての幼稚園小中学校で笑顔、そして基本計画には写真がありますが、この中には組織にある施設すべての写真が入っております。指針には各全小中学校の取組の写真も入れてくださいます。南丹市の子どもたちを中心にさせたいという思いがありますので、そういうことも知っていただいて、まだまだ力不足のところもありますが、ご支援いただく中で充実した、受けた教育のある南丹市を目指していきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。閉会のご挨拶とさせていただきます。本日は本当にご苦勞様でした。

〔総合教育会議事務局〕

長時間に渡りましてありがとうございます。以上をもちまして、令和5年度第2回南丹市総合教育会議を終了します。誠にありがとうございました。